

## 審議会会議録

会議名称	平成25年度 第3回伊達市立図書館運営協力会		
議 題	(1) (仮称) 「伊達市子どもの読書活動推進計画」 (案) について		
開催日時	平成25年10月24日(木) 14時00分～16時00分		
場 所	伊達市立図書館 2階 視聴覚室		
出席者	伊達市立図書館運営協力会委員 10名 (欠席者0名) 事務局 (伊達市教育委員会教育部図書館)		
	所管部課名	伊達市教育委員会教育部図書館	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	0名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】</p> <p>開会后、会長より挨拶があり、その後質疑・意見交換に入り、最後に次回会議の日程・内容について示された。</p> <p>会 議</p> <p>(1) (仮称) 「伊達市子どもの読書活動推進計画」 (案) について</p> <p>事務局～「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年12月に施行された。この法律により国がまず「子ども読書活動推進計画」を作り、北海道も作成し、現在、国と道は第三次計画まで作成している。別添「生きる力をはぐくむ北の読書プラン」を見ていただきたい。市町村も「子ども読書活動推進計画」を策定し、概ね5年ごとに見直しするよう努めなければならないが、伊達市は計画より実践ということで、現在策定していない。近隣の苫小牧・室蘭・登別市は第二次計画まで策定済である。国の第三次計画では、平成23年度末で市町村の策定率が市71.1%、町41.0%、村29.7%であるが、5年後に市は100%、町村は70%以上の策定率を目標にしている。不読率（1か月に本を一冊も読まない子どもの割合）が小学生4.5%、中学生16.4%、高校生53.2%となっており、10年間で半減することを目標としているが、5年後には小学生3%、中学生12%、高校生40%以下を目指している。他には地域における読書推進活動（読書環境の充実）、学校における子どもの読書活動の推進（学校図書館の機能強化、12学級以上の学校に司書教諭を配置、その他の学校に図書館担当職員の配置）、子ども読書の日(4月23日)にふさわしい事業を実施するよう努めることがある。</p> <p>「伊達市子どもの読書活動推進計画」案は歴代館長が作っていたものを叩き台にして作成したが、文章だけでぎっしりと書いていたので各施策項目を分かりやすくとの道からのアドバイスもあり、今回のものに出来あがった。実際にどのようなものにしていくのか施策と取り組みを、4Pから書いてある。今後平成26年から30年までの5年間の取り組みを書いてある。各市町村の内容をみても書き方はバラバラであるが、おさえ方は同じで家庭、学校、地域があって読書推進に取り組んでいる。各市町村のものを資料としてつけると膨大になるので、道のものをつけさせていただいた。道は市町村のまとめになるので違う部分もあるが参考にして欲しい。この案を基本として、皆さんからのご意見などで手を加えて『案』を完成させたい。市の関係各課と協議し、最終的には市民の皆さんに意見をいただかなくてはいけない。</p>			

- 会 長～伊達市の施策として、読書活動を推進していくということですね。出来上がったものは伊達市の施策となる。図書館が中心となって実行していくのだろうが、学校に協力していただかないと絵に描いた餅になる。色々な所をお願いしていかなければならない。そういう意味では大変なことである。次回まで読んできていただきたい。特に聞いておきたいことはありますか。
- 委 員～学校の司書教諭のことについてですが、教員とは資格が別で12学級以上の学校に設置することになっていると思う。伊達市内にはどのくらいいるのか。その人達の意見はどの程度取り入れているのか。
- 事務局～司書教諭が居るのは光陵中、伊達中、伊達小、東小、西小の5校です。
- 会 長～司書の資格を持っている先生が学校にいること、としている。
- 委 員～小学校は担任を持って担当しているので、司書もやるのは大変だし難しいと思う。今年は休み時間にやって整理されていたようだが。
- 会 長～先生の熱意の持ち方で違ってくると思う。本来は新しいシステムを作って整備すべきだが、今の学校は忙しく先生の負担となる。読書推進活動を進めるのは、本来は学校だと思う。
- 委 員～以前の学校では図書ボランティアが中心となって学校で活動していたので大変ありがたかった。ボランティア組織を学校につくる働きかけを盛り込んではどうか。色々なところと連携することが必要である。原案を作るため、どういうメンバーを考えているか。
- 事務局～関係機関ですが、ボランティア、保育所、子育て支援センター、幼稚園、学校等と連携し、内部では児童家庭課や福祉担当部署、学校教育課等と協議し、伊達市の子ども読書活動推進計画を作っていかなければならないと考えています。
- 部 長～きちんと庁内の会議で内容を詰めたあと、パブリックコメントで市民に広く意見を求めることになる。
- 委 員～策定の中心になるのは図書館か。はっきりとした中心はここだとして欲しい。
- 事務局～それぞれの自治体ごとに異なるが、伊達市では情報の中心が図書館ということもあり中心は図書館と考えています。
- 委 員～教育委員会が中心となると広くてボヤけてしまう。ボランティアとしてお手伝いできるのは、図書館の方が活動しやすい。
- 会 長～大変でしょうけど図書館でしてくれた方が良い。
- 部 長～中心は図書館です。ただ教育委員会以外の別の機関を巻き込むことになるので大変ではあります。
- 委 員～図書館以外で活動しているボランティア団体との連携はないのか。
- 事務局～今はないが、今後そのような団体と連携ができると良いと思っています。
- 委 員～他の市町村では実際に活動しているのか。
- 事務局～近隣市の室蘭・登別・苫小牧は第二次計画まで策定済で、第一次の活動の点検評価が載っている。“～市”か“～市教育委員会”の名前で策定している。伊達は今後、色々なところと連携をとりながら、読書活動推進計画を策定し、第二次計画を策定する5年後には活動の点検評価をしなければならないと考えています。
- 委 員～読み聞かせボランティアをしているが、学校から良かったと言われることもあるが、反対にかかわり合いを持ちたくないという先生もいる。
- 事務局～そのような話も聞くが、それはお互い子どもの読書活動推進のためということで解決されていくことかなと思います。
- 委 員～家庭では親は読書させなければと考えているが、学校ではかえって負担になっているところがあるように感じている。

委員～学校では、放課後は部活動、宿題などで忙しく、図書室は勉強部屋に変わっている。子どもの余暇はテレビ・インターネットが中心。学校のとらえ方で、入って来てくれるのを好む先生もいるし、問題をかかえているクラスは大変で、ケースバイケースですが、全ての学校が部外者を嫌っているわけではない。それぞれの学校と相談して欲しい。

あと、0歳からというのはわかりやすいが、18歳というのはわかりづらい。まず、15～18歳までの本離れをなくす。そして、読書は学校より家庭で行うものではないか、学校ではないのではと思う。

委員～各学校の校長先生によって読書が盛んになることがある。申し訳ないが人によって変わるので難しいです。

会長～学校は一生懸命やっていると思う。各委員持ち帰りご検討いただきたい。次回は12月19日ですよろしいですか。提言をどうするかについても話し合いたい。

#### 【その他】

##### 状況報告等

1. 伊達市小中学生読書感想文・感想画事業の審査について
2. 図書館ボランティアの募集について
3. 平成26年度予算案の検討について

##### 次回開催日程について

開催日時～平成25年12月19日（木）14時から

場 所～伊達市立図書館 2階 視聴覚室